

▶ 四浦 研治 (ディスクユニオン新宿JAZZ館)

Kenji Yotsuura



推薦盤  
[Penguin]



ハガイ・コーエン・ミロ

**Haggai Cohen Milo (b)**

Kira Cohen-Milo

変拍子の達人が奏でる現代のエキゾチズム

テルアビブ郊外のキリアット・オノ生まれ。20歳で渡米、NECに入学。盟友オメル・クラインと2007年「Omer Klein & Haggai Cohen Milo / Duet」をフレッシュサウンド・ニュータレントよりリリース。フィッシュミドルトン・ジャズソリストコンペティションでのグランプリやダウンビートマガジン・ミュージックアワードなど数々の受賞。中東音楽(アラブ、北アフリカ、バルカン地方)のエッセンスを活かした変拍子得意とし、西洋と東洋の伝統音楽を現代的に融合させたエキゾチックなメロディーが特徴的。2010年「Omer Klein / Rockets On the Balcony」、2013年「Omer Klein / To The Unknown」へ参加。同年、そのトリオの一員として来日も果たす。2014年、待望のリーダー作「Penguin」を発表。コンテンポラリーなこれぞジュエーイッシュ・ジャズの最新型と言ってよい、新世代ならではのサウンドが堪能できる一枚となった。また注目を集めるイスラエル出身のギタリスト、ロテム・シバンの最新作「Rotem Sivan / For Emotional Use Only」ではハガイのジャズ・ベースとしての実力を堪能できる。

▶ 四浦 研治 (ディスクユニオン新宿JAZZ館)

Kenji Yotsuura



推薦盤  
[Alon Nechushtan / Words Beyond]



アロン・ネフシュタン

**Alon Nechushtan (p)**

ジュエーイッシュ・ジャズの枠を飛び越えた最新型の本流ジャズ

1974年リション・レツィオン生まれ。エルサレム音楽院を卒業後、渡米。2003年、ボストンのNEC修了後NYへ。2004年にAyley Recordsより「Copperhead Trio / Labyrinths」をボブ・モーゼス、ジョン・ロックウッド、ボブ・グロッチェというボストンの精鋭ミュージシャンらとリリース。2006年、自身のクレスマー・バンドTALATを率いて「Alon Nechushtan & Talat / The Grow」をジョン・ゾーンのTZADIKからリリース。2011年、初のピアノ・トリオ作品となる「Alon Nechushtan / Words Beyond」を発表。本作は現在のニューヨークの新たなメインストリーム・ジャズに呼応したサウンドで注目を集めた。2013年、ドイツのbetween the lineよりイスラエルのフリー・インプロビゼーション・シーン開拓者の一人である南アフリカ出身のクラリネット奏者、ハロルド・ルービンをフィーチャーして「Alon Nechushtan / Ritual Fire」をリリース。2014年、「Alon Nechushtan / Venture Bound」をEnjaよりリリース、ダニー・マカスリン、ジョン・エリス、クリス・ライトキャップ、アダム・クルーズ、デュアン・ユーバンクスといったメインストリーマーらとジュエーイッシュ・ジャズの枠を飛び越えた最新型の本流ジャズを発表。彼の音楽性の懐の広さは、その作曲家としての資質からくるものであることに間違いはない。



# ISRAELI JAZZMEN

## The Next Generation

### 次代を担うイスラエルジャズメン

“彼らの音楽への狂おしいほどの情熱は、  
一体どこからやってくるのだろうかと考えずにはいられない。”

(山中千尋/ピアニスト)



オフリ・ネヘミヤ  
**Ofri Nehemya (ds)**  
Yoko Higuchi

イスラエル出身のジャズ・ミュージシャン、とりわけ若手の台頭が著しいと言われている昨今。気付けば、20代、30代前半のユースがわが世の春を謳歌するかのように、憧憧地ニューヨーク、あるいは欧州各地で自己を存分に解き放っている。これは特段イスラエル勢に限った事象ではないのだが、実際彼らの中には、テルアビブのテルマ・イェリン芸術高校で、ジャズ、クラシック、または自国および近隣諸国の民族音楽などを徹底的に学び、卒業後は、パークリー、ニュースクールといった米国の名門音楽大留学を足掛かりにして、早々とニューヨーク・シーンの最前線に飛び込んでいる者がほとんどだ。シャイ・マエストロ、ギラッド・ヘクセルマン、オメル・クライン、ロイ・アサフといったすでに全国区のプレイヤーのみならず、オムリ・モール、ニタイ・ハーシュコヴィッツ、アサフ・グレイツナー、ガディ・スターン、ナダヴ・レメズ、ガディ・レハヴィ... 枚挙にいとまなく登場する注目株や新星たちもほぼ同じコースを歩んでいる。もちろん、90年代初頭にアヴィシャイ・コーエン (b)、オメル・アヴィタルら「第1世代」と呼ばれる先輩たちが切り拓いた道や培ってきたノウハウが道標になってはいるのだが、そのレールをなぞるだけでは意味がないということを彼らは十分に心得ている。そればかりか、最も重要なモチベーションを、各々が舎や聖地の街角で会得したスキルやマインドをいかに現代的なリアリティを持ったジャズへと落とし込んでいくべきか、という高次元意識の中に置いているスマートぶり。21世紀に入り加速度的に多言語化〜複合化しながら膨張を続けるジャズにおいて、新しい世代にとっての優先タスクは、鋳型にはめられた遺伝子や所作を残すことではないのだ。また、彼らの活動がグローバルセッションを端的に示すお手本となっているとはいえ、シャイにしろギラッドにしろ、ある程度の望郷心こそあれど、もはや「イスラエル発」というレプリゼントに拘泥する必要性はまったくないと感じていることだろうし、一方でゴールをニューヨークに設定していることもないだろう。両者の目下の最新作「The Road To Ithaca」や「This Just In」、あるいはガディ・スターン率いるシャロシュの「Bell Garden」などには、オープン且つどん欲で、常に感性のアンテナを張り巡らせながら縦横に漂泊し続ける、そんな若者たちの清々しいうごめきをはっきりと感じ取ることができる。

小浜 文晶 (ローソンHMVエンタテイメント)  
Fumiaki Kohama



ニタイ・ハーシュコヴィッツ  
**Nitai Hershkovits (p)**  
Yoko Higuchi

イスラエルのジャズフェス - Festival -

■美しく贅沢なジャズフェス「レッドシー」

毎年夏、イスラエル最南端のリゾート地エイラットでは、「レッドシー・ジャズフェスティバル」が開催される。2014年で第28回を数え、かつて上原ひろみも出演した知る人ぞ知るジャズフェス。真夏のエイラットの温度計は日中40度を越える。暑い砂漠だししかし、陽が傾き、街の背に広がる山々が夕陽と反射しながら美しい紅色に染まる光景は何度見ても美しい。「今日は何を聞こうか」とワクワクし始める時間だ。港に設置された三つの特設ステージが開くのは夜8時。それから夜中の2時過ぎまで、国内外から集まったアーティスト達の音が天高く夜空に響き渡る。それで終わらないのがレッドシー。別会場ではジャムセッションが始まる。演奏を終えたばかりの大物が次々にステージに上がる。クリスチャン・マクブライドとリチャード・ボナが共演して会場を魅了した夏もあった。灼熱の太陽が昇る前に眠りにつき、山々が紅色に染まる前に動き出す。そんな日が4日間も続く贅沢なジャズフェスへ、是非!

<http://www.redseajazzeilat.com/>

樋口 義彦 (在イスラエル日本大使館元専門調査員)  
Yoshihiko Higuchi

▶小浜 文晶 (ローソンHMVエンタテイメント)

Fumiaki Kohama



オフイール・シュワルツ  
**Ofir Shwartz (p)**

推薦盤  
[Shades Of Fish]



Eynat Mendelson

フレキシブルで変幻自在な次世代アクト

1979年ハイファ生まれ。学年的には、アヴィシャイ・コーエン (tp)、エリ・デジプリ (sax) らとほぼ同じとなる、このオフイール・シュワルツというピアニスト。昨今のシーンをリードする顔役たちの年齢を鑑みれば、現在34歳のオフイールは、同じく改革の先導役としての適齢期にさしかかっていると言っても大げさではないだろう。2010年のリーダー・デビュー作「Earlier In Time」では、ロック、ドラムンベースからインスパイアされたユニークなリズム・アプローチやトリオ・アンサンブルを展開。また現代っ子ならではの洗練されたハーモニーに、伝統的なジュエイス・メロディーやクラシック仕込みのスキルとが相俟って生成されたハイブリッド・サウンドは、彼らのクリエイティビティに対するポテンシャルの高さをしっかりと印象付けた。本作は、2013年にリリースされたトリオによる最新録音だ。「人カドラムンベース」と称されることしばしば、リズム隊のアクロバティックな躍動感に目を剥く圧巻のオープナー「Caelum」こそ、フレキシブルで変幻自在のスタイルでジャズの歴史を塗り替えようとする次世代アクトのあるべき勇姿か。堂々のロックビートで衆目を集める「Industrial City」、「Industrial City Vol.2」にしても然り。この躊躇のなさが実に気持ち良い。アメリカにロバート・グラスパー、日本に上原ひろみと、世界各地にマッハのスピードでジャズを更新し続け、超え続ける比類なき顔科がいるように、イスラエルにも彼らと同様の雄壮な心でシーンを大いに焚き付けるピアニストがいたのだ。オフイール・シュワルツ。本当のおたのしみはここからだろう。

イベント情報 - Events -

三夜連続イスラエルジャズ特集(ボディ&ソウル/南青山)

3 Nights of Israeli Jazz @ Body and Soul (東京都港区南青山6-13-9)  
9月5日(金)ロイ・アサフ・トリオ Fri. Sep.5 / Roy Assaf Trio  
9月6日(土)アヴィシャイ・コーエン "Triveni" Sat. Sep.6 / Avishai Cohen "Triveni"  
9月7日(日)ヤロン・ヘルマン・トリオ Sun. Sep.7 / Yaron Herman Trio

予約:TEL: 03-5466-3348(午後5時以降)

イスラエルミュージック・ナイト ~ジャズ・ポップス・ワールドミュージック~

(サラーム海上:ヤロン・ヘルマン・トリオ&ロイ・アサフ) \*入場無料/要予約  
Café 104.5 Music Voyage ~Israeli Jazz, Pops and World Music hosted by Salam Unagami  
Special Guests: Yaron Herman Trio and Roy Assaf  
日時:9月9日(火)18:00開場/19:00開演 Tuesday, Sep.9 / door 18:00 / start 19:00  
場所:「Café 104.5」(東京都千代田区神田淡路町2-101ワテラス2F) at Café 104.5  
サラーム海上氏によるイスラエルの最新ミュージック・レポートとゲストのミニライブ。  
イスラエルフードとワインを片手にアーティストとユルく交流。気分はテルアビブ!

予約:Café 104.5 TEL: 03-3251-1045



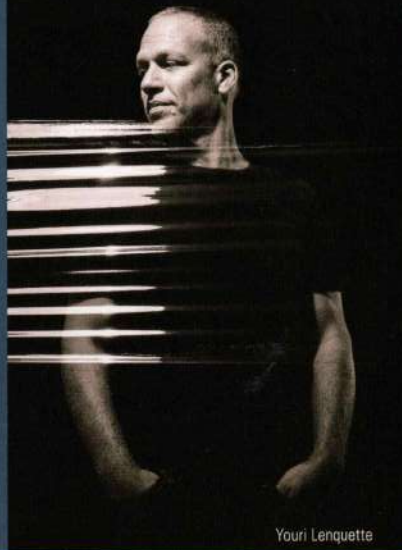
## Avishai Cohen

アヴィシャイ・コーエン

### 次代を発掘・育成する アヴィシャイ・コーエン

アルバム「All Original, Best of young Israeli jazz presented by Avishai Cohen」によせて

www.razdazrecordz.com  
www.avishaicohen.com



Youri Lenquette

ファンや記者たちにイスラエルのジャズシーンについて尋ねられることがよくある。そんな時はいつも、自分がいまだにその一端でプレイしていることをとても誇りに感じる。イスラエルで育ち、生活し、大人になった今、この落ち着きのない、常に物議をかもしている場所こそが、住む人々に大きなインパクトを与えていることがわかってきたんだ。偉大なアーティストになるには、有意義な人生体験や語るべき物語が必要だが、イスラエルはまさにそれらを得るのによってつけの場所といえるだろう。断続的な脅威や紛争が日常生活の一部になっている場所に住む若者たちの生活は、否が応でもそうなってしまうと、自分には思える。今、イスラエルからたくさんの熟練した、あるいは若いジャズメンが輩出されている理由の一つは、この点にあると確信している。

そんな中で最近、「僕はここにいる」とアピールする真摯な若いミュージシャンたちのムーブメントが、驚異的な勢いで生まれ、成長していくのを目の当たりにしている。だから自分も、というかむしろ彼らより声を大にして、彼らを応援しようと思ったんだ。このアルバムを出すのもそのためだ。このアルバムは、そのムーブメントを導く若者の中でも、特に自分に大きなインスピレーションを与えてくれたミュージシャンを個人的にセレクトしたものだ。以前自分と一緒に仕事をしたことのある者もいるし、現在自分のバンドと一緒に演奏している者もいる。彼らは皆、自分たちの作った一つの大きなコミュニティに属しているが、この先どうなるかなんて誰にもわかりはしない。

このレコーディングを特別なものにしてるのは、この5つのバンドのリーダーたちが素晴らしい作曲の才能を発揮し、それが音楽の将来的な方向性を示唆している点だろう。いまやNYだけじゃない、イスラエルだってジャズの一大中心地だって断言できることをとても嬉しく思う。将来にとっても期待しているし、自分もこの進化の一部であり続けたいと思う。

というわけで、「All Original, Best young Israeli jazz」をリリースできることを、誇らしく思うと同時に、とてもワクワクしている。

アヴィシャイ・コーエン(b)

\*このアルバムにはオムリ・モール、オフリ・ネヘミヤ、ガディ・レハヴィ、タル・マシアハ、エヴィアタール・スリヴニク、アヴリ・ボロコブラが紹介されています。

### イスラエルのジャズ教育 - Education -

#### ■高校を卒業したらプロ!

イスラエル・ジャズの勢いはこれからも続く。中高生を対象としたジャズ教育が、勢いを支えているからだ。ジャズ教育は複数ある芸術学校の課程として確立している。現役アーティスト達がジャズの理論と専門的な技術を丁寧に教える現場だ。イスラエルに帰国したアヴィシャイ・コーエン(b)などの一流アーティストの多くが、次世代の育成に惜しみなく時間を捧げ、質の高いジャズ教育に一役買う。中でも、パークリー音楽大学やニュースクール大学での留学が含まれる課程は登竜門。中高生達は、イスラエル人アーティストがそうであるように、オリジナルの楽曲を追及する。ジャズを通じた自己表現に貪欲だ。高校を卒業する頃には「プロになる」という意識を当たり前持っている。そして、実際にプロとして羽ばたいていく。来年、再来年に羽ばたくことを夢見る中高生達が、今日も熱心にジャズを学んでいる。

樋口 義彦(在イスラエル日本大使館元専門調査員)  
Yoshihiko Higuchi

### イスラエルジャズ概論 - Overview -

リズム、メロディー、ハーモニーが高純度で混ざり合う肥沃な音作りの上に、冒険精神たっぷりの即興演奏がシャワーのように降り注ぐ。楽曲がスタンダード・ナンバーでなくても、古式ゆかしき4ビートが使われていなくても、ほとぼしるのはジャズの熱。超絶的な技巧と親しみやすさが奇跡的なまでに共存し、たとえ複雑な変拍子を用いたナンバーであろうと聴く者は体を動かしたくなる欲求を抑えきれない。

このところイスラエル・ジャズへの注目は高まるばかりだが、「そりゃそうだろう」と思う。新鮮で、面白くて、体が火照ってくるサウンドだもの。そそるに決まっているのだ。なんだかんだいってジャズも約100年の歴史を背負っている。長く続くほど硬直化していくのは物の道理かもしれない。しかしどうやら、イスラエル出身者にとって「ジャズ」は極めてフレッシュで、尽きない興味を与えるものであるようだ。「ジャズ」という食材には、まだこんなに隠された味わいがある。ジャズという色彩には、まだこんなに秘められたグラデーションがある。そう思わないか?と、彼らはおのれ自身の表現を差し出す。

今日も数多くのイスラエル・ジャズメンが世界各地に散らばって、「哀調を帯びた旋律」、「渦を巻くようにうねるリズム」、「固太い音色」の三位一体を繰り広げていることだろう。私たちにできるのはただひとつ、それを思いっきり賞味することだ。

原田 和典(音楽評論家)  
Kazunori Harada

### イスラエル現地体験記 - Report -

2013年11月にエルサレムで開催された「International Music Showcase for Jazz and World Music」に招かれた。初めての現地取材は何もかもが新鮮な体験。CDや来日ミュージシャンのライブを通じて認識していたイスラエル・ジャズのルーツと現況を、身をもって理解できたのが大きな収穫となった。4日間で30組近いアーティストのステージを次々と目の当たりにしながら実感したのは、ジャズ先進国の欧米とは異なる発展途上のこの国ならではのエネルギーと、豊かな人材だ。アメリカの教育機関との関係深化を背景に成長を続ける同国のミュージシャンが、両国を自由に行き来できる環境の中でキャリア・アップを実現させているのも強み。観客から熱狂的な歓迎を受けたダニエル・ザミール(ss,vo)の強烈なパフォーマンスは、初来日が実現すればたちまちセンセーションを巻き起こすこと必至と確信した。ジャズ・プロバパーの立場で言えば、未知のワールド系ミュージシャンのステージがジャズとの隣接関係を教えてくれて、今回の取材の教訓になった。この国の動きはまだ目が離せない。

杉田 宏樹(音楽評論家)  
Hiroki Sugita

### イスラエルのジャズの風景 - Impressions -

もちろんあらゆるジャズと同じく、イスラエルのジャズを一言で総括することなど到底不可能だけれど、イスラエルを祖国とするミュージシャンたちの演奏を聴くたびに、彼らの音楽への狂おしいほどの情熱は一体どこからやってくるのだろうかと思わずにはいられない。

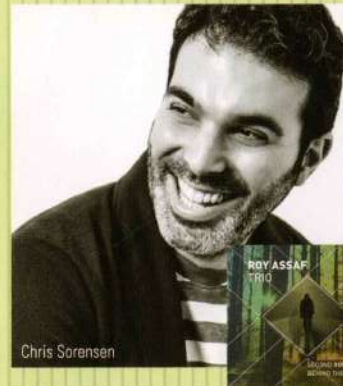
ボストンでの学生時代、あるコンサートのリハーサルで自分のほかはイスラエルからのミュージシャンばかりが演奏するという現場にいたことがある。最初の一言を出したあと、次の一言までの間にヘブライ語での激しい口論が始まり(言語をまったく理解しないものとしては)なんとという大喧嘩をしているのかと勘違いするような激しさに思わずひるんでしまった。彼らにしてみればこういう意見交換は、音というかたちに表現を落とすための当たりまえのプロセスなのだそう。彼らは決して無言で妥協するというような安易な方法を取らない。戦いも辞さないような音楽への思い入れの深さも、イスラエルのジャズに特別な輝きをもたらしているのではないだろうか。

個人的なイスラエル人の友人との交流から言えば、彼らほどユーモアと愛情に富んだ人々はいない。臆することない温かさやアイロニーのバランスが心地よく、故郷とは生まれた土地だけを意味することではない、とイスラエルの畏友を通して学んだ。イスラエルのジャズとの出会いはいつだって新鮮でどこか懐かしい。そのジャズの風景は現代ジャズの絵巻そのものだ。

山中 千尋(ピアニスト)  
Chihiro Yamanaka

企画・制作:イスラエル大使館文化部 TEL:03-3264-0392 MAIL:culture-sec@tokyo.mfa.gov.il  
協力:オフィス・ズー/ビデオ・アーツ/ミュージック/55レコード/Tower Records/Disk Union/HMV/  
King International/Cotton Club/Blue Note Tokyo/東京JAZZ/サラム海上(表紙写真)  
/Division for Cultural & Scientific Affairs, Ministry of Foreign Affairs, Jerusalem/Israel  
International Exposure for Jazz and World Music





Chris Sorensen

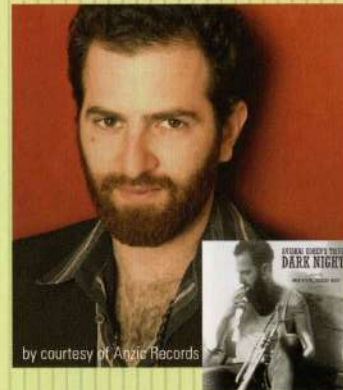
ツアー企画 55Records (info@fiftyfiverecords.com)

<ロイ・アサフ・トリオ ツアー2014>

9月3日(水) ミスター・ケリーズ/大阪  
 9月4日(木) カフェ・マムゼル/袋井  
 9月5日(金) ボディ&ソウル/南青山  
 9月7日(日) 東京ジャズ  
 9月8日(月) ガールトーク/水戸

<来日メンバー>

ロイ・アサフ(p)  
 タミール・シュマーリング(b)  
 ジェイク・ゴールドバス(ds)  
 Roy Assaf(p)  
 Tamir Shmerling(b)  
 Jake Goldbas(ds)



by courtesy of Anzie Records

ツアー企画 Office Zoo (zoojazz@nifty.com)

<アヴィシャイ・コーエン "Triveni" ツアー>

9月6日(土) ボディ&ソウル/南青山  
 9月7日(日) ビットイン/新宿  
 9月8日(月) ル・クラブジャズ/京都市  
 9月9日(火) Kenny/松阪市  
 9月11日(木) スイングホール/武蔵野市  
 9月12日(金) ライフタイム/静岡市  
 9月13日(土) 北國新聞赤羽ホール/金沢市  
 \*金沢ジャズストリート

<来日メンバー>

アヴィシャイ・コーエン(tp)  
 ジェフ・バラード(ds)  
 タル・マシアハ(b)  
 Avishai Cohen(tp)  
 Jeff Ballard(ds)  
 Tal Mashiach(b)



by courtesy of ACT Music

ツアー企画 Video Arts Music  
 (hisao@videoartsmusic.com)

<ヤロン・ヘルマン・トリオ ツアー2014>

9月7日(日) ボディ&ソウル/南青山  
 9月8日(月) ミスター・ケリーズ/大阪  
 9月10日(水) ドルフィー/横浜  
 9月11日(木) HAKUJUホール/ソココンサート  
 9月13日(土) 北國新聞赤羽ホール/金沢市  
 \*金沢ジャズストリート  
 9月14日(日) 沖縄県宜野座村  
 国際交流音楽祭

<来日メンバー>

ヤロン・ヘルマン(p)  
 ジブ・ラヴィッツ(ds)  
 ハガイ・コーエン・ミロ(b)  
 Yaron Herman (p)  
 Ziv Ravitz (ds)  
 Haggai Cohen Milo(b)

ロイ・アサフ・トリオ

Roy Assaf Trio

1982年ベエルシェバ生まれ。2003年米バークリー音楽大学に進学、その後NYへ移り、マンハッタン音楽院を卒業。ディジー・ガレスピー・アルムナイ・オールスターズの一員として各国をツアー。ジェームス・ムーディー、ジミー・ヒース、ランディ・ブレッカー、ロイ・ハークローヴ、ミンガス・ビッグバンド、ロバート・ガンバリニ、クラウディオ・ロディティ等と共演。2012年、自身のバックグラウンドとジャズの遺産に対する敬意を表明した初リーダー作「リスベクト Vol.1」を発表。ラヴィフ・マルコヴィッツ(b)、ジェイク・ゴールドバス(ds)と2012年秋に結成したトリオでレコーディングした新作「セカンド・ロウ・ビハインド・ザ・ペインター」は自身の人生から得たストーリーを音楽に吹き込み、オーディエンスを果てしない冒険の旅に連れ出してくれる素晴らしい出来で、その圧倒的なスケールは、自己のオリジナル曲を中心にデューク・エリントン、ミシェル・ペトルチアーニから故国イスラエルの国民的作詞作曲家ナオミ・シェメルまでをインテリジェントでつなぐ巧みな構成とピアノ、ベース、ドラムが対等な関係を維持する高度な演奏に支えられている。アヴィシャイ・コーエン、シャイ・マエストロ等イスラエル・ジャズへの注目が高まる中、この新しい才能が大きな話題を集めるのは必至で、ケニー・バロン、ミシェル・カミロ、ジェイソン・モラーンという世代も方向性も違う世界的なピアノ・マスターたちが絶賛するものなすける。

今後はデッド・サンボンの新作に抜擢されるなど幅広い活躍が期待される。2014年東京ジャズに自己のトリオで初出演を果たす。

五野 洋 (55レコード)  
 Hiroshi Itsuno

アヴィシャイ・コーエン "トリヴェニ"  
 Avishai Cohen "Triveni"

1978年テルアビブ生まれ、同名異人のベーシストより一世下にして、今やNYのシーンをも席巻するトランペッター。2003年のデビュー作を「The Trumpet Player」としたのも、他でもないベーシスト、アヴィシャイとの関係性によるとのエピソードながら、ハーモニー楽器を入れることなく、熱く自由に吹きまくる演奏は、エネルギーに満ち溢れ、最小ユニットにして絶大なインパクト。処女作にして、その存在を強烈に印象づけた。2012、13年にはダウン・ビート誌のクリティックス・ボールにも選ばれ、SFジャズ・コレクティブや、ミンガス・ビッグ・バンドといったオール・スター・バンドにも参加。昨今では、マーク・ターナーのバンドへの加入と、話題も尽きない。

一方、イスラエル二大ベース、オメル・アヴィタルのレギュラー・バンド、オメル、ヨナタン・アヴィシャイ、ダニエル・フリードマンなどによるサード・ワールド・ラヴといったイスラエル出身者を核としたグループでの演奏では、哀歌が交錯する旋律と音色で聴く者の哀愁をそそる。ルーツに根付いた表現、語り口、湧き出るようなイメージーションによって勢いよく生みだされるソロ演奏の数々、その世界は今や、唯一無二と言えるだろう。最新作はジャズの真骨頂であるスポンテニアスな即興劇が魅力のオメル・アヴィタル、ナシード・ウエイツとのレギュラー・ユニット「Triveni」での3作目となる「ダーク・ナイツ」。オリジナルを中心に、ミンガス、オーネットといった巨匠の世界にも迫る演奏には伝統への敬意と現代性が同居する。リーダー・トリオでの初の来日公演は、デビュー作に参加したジェフ・バラードも迎えている。生で見た人にしかわからない興奮を予感させるアヴィシャイ。こちらも楽しみである。

関口 滋子 (キングインターナショナル)  
 Shigeko Sekiguchi

ヤロン・ヘルマン・トリオ

Yaron Herman Trio

1981年、テルアビブ生まれ、パリを拠点に世界各国でコンサート活動を展開、各音楽メディアが「キース・ジャレット、ブラッド・メルドーに次ぐピアニスト」と絶賛する逸材。ジャズの未来を担うピアニストの一人、どの評価も得ている。

彼が本格的にピアノに取り組んだのは16歳の時。それまではイスラエルのバスケットボールのナショナル・チームの一員として活躍していたが、選手生活を断念せざるを得ない致命的な怪我を負った時に、そこにあったのが「ピアノ」。それから数年後、イスラエルでも権威ある賞として知られる「RIMON賞」の「若き才能部門賞」に輝き、一躍、その存在を知られた。

これまでに数多くのアルバムを発表してきているが、そのレパートリーは、ガーシュインから、スティング、ビョーク、レディオヘッド、プリティ・スピアーズ、更には、イスラエル古謡まで。ジャンルという概念を飛び越えた姿勢が多くの人を魅了してやまない。アルバム「瞑想/ミューズ」では、ヨーロッパで話題の弦楽四重奏団「エベヌ弦楽四重奏団」をゲストに迎えるなど、新たな展開を見せているが、そこにあるのは、まぎれもない「ヤロンの音楽」。その動向から目が離せないアーティストの一人である。

海老根 久夫 (ビデオ・アーツ・ミュージック)  
 Hisao Ebine

▶ 稲田 利之 (タワーレコード難波店)

Toshiyuki Inada



推薦盤  
[New Song]



オメル・アヴィタル  
**Omer Avital (b)**

by courtesy of  
Anzic Records

海外組の先駆者にして大黒柱

1971年ギヴァタイム生まれのベース奏者オメル・アヴィタルは、幼少の頃からジュエッシュ文化と中東文化に接しながら、ジャズやブルースをも耳にして育つ。1992年に渡米後、90年代のニューヨーク・シーンの活況に鍛えられ、自身のアイデンティティを見つめながらも、ニューヨークのメインストリームでも通用するプレイヤーとしての堅実な実力とジャズへの不偏の愛情を育んできた。自身のリーダーとしての活動に加え、イスラエルからの後進の台頭をサポートしてきた彼に転機が訪れたのは2002年。イスラエルに帰国し3年間を費やして、アラブやイスラエルの音楽と文化を学びなおし、2005年にニューヨークに帰還。様々な文化が交錯する美しい故郷への想いを自身の音楽にも反映させ、その音楽性はより一層強固で力強くオリジナリティに溢れたものへと成長した。アヴィシャイ・コーエン(tp)やヨナタン・アヴィンハイ(p)ら同郷の精鋭らを中心にした2014年2月にリリースされた最新作『New Song』でも、そのダイナミックな音楽性と躍動感溢れるグルーヴ、中近東〜アフリカまでを取り入れた色彩感溢れた旋律は、彼ならではのエネルギッシュなジャズを生み出している。

▶ 小浜 文晶 (ローソンHMVエンタテイメント)

Fumiaki Kohama



推薦盤  
[This Just In]



ギラッド・ヘクセルマン  
**Gilad Hekselman (g)**

Eric Ryan Anderson

現代N.Y.ジャズ最注目ギタリスト

1983年クワール・サバ生まれ。テルマ・エイリン芸術高校卒業後N.Y.へ。2005年の「ギブソン・モントルー・インターナショナル・ギター・コンペティション」で優勝後、N.Y.の個性派ドラマー、アリ・ホーニグとの絡みもあり、一気にその頭角を現した。今では、皇帝カート・ローゼンウィンケル以降のジャズ・ギタリズム論を語る際に避けては通れない、きわめて重要な存在となったギラッド。その最新作『This Just In』。レギュラートリオの盟友、マーカス・ギルモア(ds)、ジョー・マーティン(b)、そしてマーク・ターナー(ts)らN.Y.猛者と互角に渡り合えるパフォーマンスの精度の高さとイマジネーション豊かで機知に富んだ楽想力は、本作において自己レコードを大きく更新しながら、まるでジャズギター・アンサンブルのビッグバンを引き起こさばかりの新たな駆動域に突入。いわゆる「イスラエル風味」は皆無ではあるが、ラフィク・バーティア『Yes It Will!』、ニル・フェルダー『Golden Age』といったこの1年でリリースされたN.Y.の新世代ジャズ・ギタリスト作品と並べてみることで、ギラッドの現代のジャズに対する意識がより明確に伝わってくるはずだ。

▶ 稲田 利之 (タワーレコード難波店)

Toshiyuki Inada



推薦盤  
[Road To Ithaca]



シャイ・マエストロ  
**Shai Maestro (p)**

Yoko Higuchi

豊かな情感に漂うクラシックの気品

2008年のアヴィンハイ・コーエン(b)によるピアノトリオ作『Gently Disturbed』での素晴らしいプレイで注目を集めるようになった1987年テルアビブ生まれのピアニスト、シャイ・マエストロ。2006年にアヴィンハイ・コーエン(b)のグループに参加し、『Gently Disturbed』、『Aurora』、『Seven Seas』といったスタジオ録音作に参加。その活動により世界的に高い評価を受け、満を持しての2012年のデビュートリオ作『Shai Maestro』のリリース、2013年3月の来日公演を成功させる。イスラエル出身のドラマー、ジヴ・ラヴィッツとペルー出身のベーシスト、ホルヘ・ローダーを迎え、2013年秋にリリースされたトリオ2作目『Road To Ithaca』が最新作となる。力強く情感溢れるピアノのタッチ、歌心にあふれたアドリブのライン、インド音楽を学んだという繊細で濃密なグルーブ感を伴って繰り出される孤高のトリオロジ―は、現役最高峰の買値すら漂わせる気品に満ちた一枚となっている。2014年初頭には再来日公演をも成功させ、最新作は発売から数ヶ月経過してもなおロングセラーを続ける。

▶ 稲田 利之 (タワーレコード難波店)

Toshiyuki Inada



推薦盤  
[And If]



アナット・フォート  
**Anat Fort (p)**

Avi Levin

ECMも惚れたリリカルなミュージ

ネベ・モリソン生まれの女性ピアニスト、アナット・フォートは、イスラエルでクラシック・ピアノを学んだ後、即興音楽に傾倒し、渡米後さまざまなピアニストに師事しつつ、自身のオリジナリティを育んできた。気心の知れた音楽仲間とレギュラートリオを結成し、自主制作でリリースした作品が人知れず注目され、彼女のピアノに惚れ込んだドラマーの故ポール・モチアンの提案により自主制作された作品『A Long Story』は、後日録音を耳にしたECMレーベルのマンフレート・アイヒャーの希望により、ECMからの異例のリリースが実現した。(録音にECM関係者が携わっていない作品をECMがリリースすることは異例中の異例、アイヒャーの惚れ込みようが伝わってくる逸話となっている。)現在も米国とイスラエルを行き来し、その音楽性を成熟させている彼女のECMでの2作目『And If』は、長年活動を共にする彼女のレギュラートリオでのピアノトリオ盤。故ポール・モチアンに捧げた楽曲に始まり、傳くもリリカルな彼女のピアノからこぼれる美しいメロディーとトリオでの深遠なインタープレイ、そしてECMサウンドの見事なコラボレーションが結実した評価の高い一枚となった。

▶ 四浦 研治 (ディスクユニオン新宿JAZZ館)

Kenji Yotsuura



推薦盤  
[Next Page]



ヨタム・シルバーステイン  
Yotam Silberstein (g)  
Yuki Tei

技ありの正統派ジャズ、ときどきラテン

1983年テルアビブ出身。名門アロン高校でジャズを学び、卒業後NYに渡り、バリー・ハリスやカート・ローゼンウインケルに師事。2004年イスラエルのジャズ年間最優秀プレーヤーのコンペで自身のトリオで優勝。このトリオで録音した「Yotam Silberstein / Arrival」をフレッシュサウンド・ニュータレントからリリース。2005年NYに移住。この年の「セロニアス・モンク・インターナショナル・ギター・コンペティション」ではファイナリストに。2009年、サム・ヤヘル、クリス・チャーク、ウィリー・ジョーンズ三世を従えてコンテンポラリーなメインストリーム・ジャズを奏でる「Yotam Silberstein / Next Page」をリリースし好評を得ると、よりストレートアヘッドなジャズを展開するJazz Legacy Productionsから2010年「Yotam / Resonance」、2011年「Yotam / Brasil」の2枚のリーダー作を発表。現代のジャズ・ジャイアンツの一人であるモンティ・アレキサンダーのグループに参加し2011年「Monty Alexander / Harlem-Kingston Express」、2014年同シリーズVol.2と立て続けにリリースした。

▶ 稲田 利之 (タワーレコード難波店)

Toshiyuki Inada



推薦盤  
[To The Unknown]



オメル・クライン  
Omer Klein (p)  
Simon Hegenberg

情熱とメランコリーのヴィルトゥオーソ

1982年ネタニヤ生まれのピアニスト、オメル・クラインは、2005年米国に移住し、ウェイン・ジョーダーとの活動で知られるピアニスト、ダニーロ・ベレスとブラッド・メルドーをはじめ現代ジャズシーンを牽引する数多くの音楽家を育てたことでも知られるフレッド・ハーシュに師事。2008年のデビュー作「Introducing...」からの一曲が、日本でも寺島靖国氏の「Jazz Bar 2009」に選曲され、ピアノトリオファンの注目を集めた。クリアで美しいピアノのタッチとメランコリックなハーモニーの旋律がとても印象的で、ハガイ・コーエン・ミロ(b)とジヴ・ラヴィッツ(ds)というオール・イスラエリによるレギュラー・トリオでの2013年リリースの最新作「TO THE UNKNOWN」は、輸入盤のみのリリースにも関わらず、日本でも大ヒットを記録し、2013年の初来日公演も大成功を収めた。現在ではラヴィッツに代わり、アヴィシャイ・コーエン(b)、山中千尋らとも共演経験のある1989年イスラエル生まれの若手最有望株アミール・プレスラー(ds)を新たにレギュラーに迎えた新生トリオでの活動を開始しており、次作のリリースが切望される注目のピアニストのひとりだ。



ジャズの聖地ニューヨークを中心に発信される  
生々しい「ジャズ」がそこにはある!

ジャズの次世代音楽家たちによる毎月の新作から、全国各地のタワーレコードのバイヤー達が、こだわりのセレクトで推薦盤の数々を紹介します。現在進行形のジャズをぜひ店頭でチェックしてみてください!

TOWER RECORDS

NO MUSIC,  
NO LIFE

「JAZZ THE NEXT」常設店舗

タワーレコード札幌ビヴォ店、仙台バルコ店、新宿店、池袋店、秋葉原店、名古屋バルコ店、名古屋近鉄パッセ店、京都店、梅田大阪マルビル店、梅田Nu茶屋町店、難波店、神戸店、広島店

disk union TOKYO, JAPAN <http://diskunion.net/jazz/>

WE BUY YOUR COLLECTIONS  
WANTED!! JAZZ VINYL / CD



diskunion Jazz TOKYO TEL: 03-3294-2648

2F, 2-1-45 Kanda Surugadai, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0062, Japan

diskunion Shinjuku Jazz Shop TEL: 03-5379-3551

3-31-2 Shinjuku, Shinjuku-ku, Tokyo 160-0022, Japan

diskunion Kichijoji Jazz Shop TEL: 0422-23-3533

2F/3F, 1-8-24 Kichijoji Honcho, Musashino-shi, Tokyo 180-0004, Japan

diskunion Shibuya Jazz Shop TEL: 03-3461-1161

BF, 30-7 Udagawacho, Shibuya-ku, Tokyo 150-0042, Japan

diskunion Yokohama-Kannai Shop TEL: 045-661-1541

2F, 4-45 Tokiwa-cho, Naka-ku, Yokohama-shi, Kanagawa 231-0014, Japan



毎日がキャンペーン

ONLINE

音楽・映像・ゲーム・グッズのオンラインショップ

ジャズの最新情報はこちら!  
HMV ONLINE JAZZ

<http://www.hmv.co.jp/new/jazz/> (PC・X・1・800) **HMV ジャズ**

HMV ONLINE

<http://www.hmv.co.jp/hmv/>

HMV MOBILE

<http://m.hmv.co.jp>

facebook

<http://www.facebook.com/hmvjapan>

twitter

[http://twitter.com/HMV\\_Japan](http://twitter.com/HMV_Japan)

HMV PREMIUM 丸善丸の内にてジャズコーナー大幅拡充

Great Jazz from Israel to the World

コーエン三兄弟のアナットと、高校の同級生でもあったオデットによって設立された NY 拠点の ANZIC、パリを拠点に、世界中の才能を発掘して送り出す Plus Loin から注目の作品続々



輸入配給元 (株) キングインターナショナル

Blue Note TOKYO

BLUE NOTE TOKYO

Call:03-5485-0088

[www.bluenote.co.jp](http://www.bluenote.co.jp)

〒107-0062 東京都港区南青山6-3-16 ライカビル

COTTON CLUB

COTTON CLUB

Call:03-3215-1555

[www.cottonclubjapan.co.jp](http://www.cottonclubjapan.co.jp)

〒100-6402 東京都千代田区丸の内2-7-3 東京ビルTOKIA 2F